

大久保主馬助を先として伊達政宗の加勢一千余人
薩本後陣にうゑを九月廿の甲辰付甲を立て先陣
既に須川より着来旅の三河尻と赤柏の間にさへり
赤河川を隔てて相合折苗時雨降りつゝも川水以の外
増り旅味方きたに渡り軍を相合旅に延延能登守り子
息延次宮内守の馬の速者なり只一騎進て川へ突入
る是を見て五百余人我者なりと一隊とて急進し馬
代をあてて渡り来たりも大川を渡り一騎の爲にまけまき
此で難き向の岸より着にるを急に加勢の大物琵琶の紋
の旗を立て山形勢より二三町下に入り急先陣川へ突入

をりて千余人一隊に川へ突入先向の岸より着て大音
声切て来るに金津勢此勢に怖れて一戦も及ばず
して引返し旅味方見むと味方川を渡りて人
馬とも労れども長追ひて戦を味方敗軍をへきと
早く引返すと下知由急是に依て諸勢一隊に據餘波を
あけて引返す義光公斜にありて悦びむと其日早く
府中へ引入りしむ